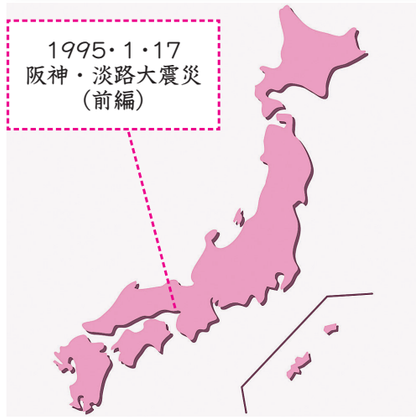
大阪自治労連の災害支援ボランティア 1



住民のいのちを守るため自治体の役割を使命に

1995年1月17日(火)5時46分52秒、日本で戦後初めて都市直下型「阪神・淡路大地震」が発生し、神戸市の一部で震度7、大阪でも震度4などを広い地域で観測しました。

全国から1万2000人以上の組合員がボランティアに

震災の翌日、大阪自治労連は兵庫自治労連内に「兵庫県南部地震現地救援本部」を設置し、救援物資やボランティア窓口など被災地支援の拠点づくりに取り組みました。

自治労連結成から5年、被災された自治体職員と住民の安全と生活を守るため、全国からの職員派遣を要請し、ライフラインの早期復旧、避難所運営で奮闘する組合員を激励しました。全国から1万2000人以上の組合員がボランティアに駆けつけ、総額2億2000万円以上の救援カンパが寄せられました。

自治労連現地救援本部前（兵庫自治労連）で全国の仲間を迎える

大規模災害に対応できる自治体職員体制を求めて

大阪自治労連は、阪神・淡路大震災や東日本大震災を教訓にし、大規模な災害時に対応できる自治体職員体制の強化を求めてきました。

さらに、大阪自治体問題研究所や大阪から公害をなくす会と共同で「防災まちづくり研究会」を立ち上げ、「大規模災害から住民のいのちと暮らしを守る―大阪の防災を考える提言―」を発表し、府内自治体の防災担当者との懇談など、自治研活動でも大きな役割を発揮しました。

Culture Navi かるちゃーなび

作りませんか 給食の人気メニュー

味噌雑煮

貝塚市職労　瀬戸 真一さん

協力：現業評議会・給食部会

材料（4人分）

■餅100g、鶏肉40g、焼き豆腐80g、大根100g、里芋（皮むき）40g、金時にんじん40g、かまぼこ40g、水菜40g、白みそ90g、削り節12g、水400g

作り方

①鶏肉と焼き豆腐は2㎝角、大根・金時にんじん・かまぼこはいちょう切りに、水菜は3㎝に切る。
②里芋は一口大に切り、下ゆでをする。
③水が沸騰したら、削り節を入れてだしをとる。
④だし汁に、鶏肉・大根・金時にんじん・里芋・焼き豆腐・かまぼこを入れて煮る。
⑤白みそを入れ調味する。
⑥餅を入れ、一煮立ちさせ、水菜を入れて仕上げる。

このシネマがえいが

『ケナは韓国が嫌いで』

熾烈な競争社会。自分ではどうにもならない格差
自分の幸せを求めるケナは新しい人生を始める

舞台は現代の韓国、生きづらさを感じる女性が国を脱出する物語。

大学を卒業して金融機関で働く28歳のケナは、ソウル郊外の老朽化した団地で両親、妹と一緒に暮らしています。通勤に片道2時間もかかる職場、理不尽なことを強要する上司、仕事に全くやりがいが感じられず、毎日の生活にうんざりしています。大学時代からの恋人ジミョンに相談しますが、「自分が就職したら支える」というピント外れの返事にますますイライラが募ります。家族仲は良いが貧しく、母親は新居の購入費用をケナに頼ってくるばかり。韓国での生活に希望が感じられないケナは、仕事、家族、恋人と別れ、幸せを求めてニュージーランドに移り住む決意をします。

新たな土地で新しい出会いを得て、これまでと違う暮らしを体験したケナは、不安を抱えながらも自分の道を模索します。そして、久しぶりに故郷に帰ったケナが選んだ道は…。

監督は、チャン・ゴンジェ。2015年刊行のベストセラー小説『韓国が嫌いで』の映画化で、学歴社会、競争社会、格差、ジェンダー差別など厳しい現実の中でもがく韓国の若者たちの実像を描きました。就職ができず、何年も公務員試験を受け続けるケナの同級生キョンユンのエピソードが印象的です。若い女性たちが地方から都会に出て行って戻らないという日本の現状にも通じるのではないでしょうか。

韓国とニュージーランドでのケナの表情の違いが眩しく、ラストの決断にかすかな希望を感じました。

心に響くこのひとこと

上を向いて歩こう

永六輔（えいろくすけ）
（作詞家・放送作家 1933年～2016年）

「台湾有事は存立危機事態」という高市首相の言葉が日中関係の悪化を招いています。背景にあるのが日本を米国の戦争に巻き込む日米安保条約と安保法制です。条約の期限が迫る1960年、労働組合はもちろん全国各地で安保改定反対の大運動が起こりましたが、岸内閣は改定を強行。当時の若者たちの挫折感は測り知れないものであったといいます。そんな中、「鎮魂の祈りと挫折の苦さ、それでも生き続けるという気持ちで『上を向いて歩こう』という詞をつくった」そうです。私たちの運動は及ばない時も少なくありませんが、上を向いて歩こうではありませんか。

今月の記念日

1月22日 カレーライスの日

1982年（昭和57年）1月22日、全国学校栄養士協議会が学校給食週間（1月24日～30日）に合わせて、全国の小中学校の児童約800万人を対象に給食でカレーライスをふるまい、「全国一斉献立カレーライスの日」としました。1976年（昭和51年）に正式導入された米飯給食の普及にも貢献し、日本の国民食としてカレーを祝う日に定着しました。よりいっそうカレーライスの普及拡大により、健康で豊かな消費生活の実現に寄与することを目的としています。